



此段モ馬ニ乗ル心得ヲ述テ一切道ノ
手本トセリ

徒然草諺解卷五

毎ニナリ殊ニトアルハ悪シ

昔田チカラカキテトリテ乗ル者乃リ侍一ハ馬トトシトこトいトまトりトのトなり。

人チカラカキテノカチカラカキテありトそトふトべトうトばトとトさトるトべトしトのトるトまトきト馬トとトバ

まトじトもトくトんトでト強ツヨキとトいトふトよトうトまトきトをトとト知トべトしトはトまトしト轡ツヨキ

鞆ツヨキ乃ツヨキどツヨキにツヨキあツヨキやツヨキうツヨキまツヨキさツヨキるツヨキやツヨキあツヨキるツヨキとツヨキんツヨキでツヨキふツヨキりツヨキようツヨキふツヨキるツヨキ

あツヨキらツヨキどツヨキいツヨキまツヨキさツヨキるツヨキをツヨキまツヨキじツヨキへツヨキうツヨキばツヨキけツヨキ月ツヨキ忘ツヨキとツヨキ忘ツヨキまツヨキじツヨキぶツヨキるツヨキ紙

るツヨキ糸ツヨキとツヨキふツヨキりツヨキ也ツヨキまツヨキじツヨキ秘ツヨキ義ツヨキのツヨキりツヨキがツヨキりツヨキとツヨキりツヨキさツヨキ

よツヨキろツヨキのツヨキのツヨキるツヨキのツヨキ人ツヨキとツヨキまツヨキじツヨキひツヨキ不ツヨキ慥ツヨキかりツヨキとツヨキいツヨキへツヨキらツヨキもツヨキ堪ツヨキ能ツヨキの

非ツヨキ家ツヨキのツヨキ人ツヨキがツヨキりツヨキがツヨキりツヨキふツヨキ時ツヨキ必ツヨキふツヨキりツヨキさツヨキるツヨキがツヨキりツヨキはツヨキ我家ツヨキノツヨキ人ツヨキトツヨキハ

つツヨキしツヨキそツヨキうツヨキくツヨキしツヨキくツヨキ甘ツヨキぬツヨキとツヨキひツヨキとツヨキへツヨキよツヨキ自由ツヨキなツヨキりツヨキ

見ツヨキ我家ツヨキノツヨキ人ツヨキトツヨキハ其ツヨキ義ツヨキノツヨキ器ツヨキ用ツヨキ九ツヨキ者ツヨキヲツヨキ云ツヨキ

是ツヨキハ非ツヨキ家ツヨキノツヨキ人ツヨキトツヨキハ我家ツヨキノツヨキ人ツヨキトツヨキハ士ツヨキヲツヨキ子ツヨキトツヨキハ自由ツヨキヲツヨキ冬ツヨキノツヨキカツヨキケツヨキニツヨキハ

このひとしつしつぬなり 獲能不作のこころありあはれど。

是ヨリヲ別ニテモ其ノ事ヲ大ニカクノミキリ云

大なるのちるまひ心づるひも。とあるにしてはくしめ

ふハ得のなかり。うごこにいてりまきゆかなふハ

失のなかり 名ノ思ハレ其ノ事ヲツクニ大事ニカクハ終自得ニ如キリ曾子魯鈍ニテ一カ

道ヲ得止是ノ亦ナリ器用ナリ上テ其ノ事ヲツクニサハ終道ヲ失フ

武者子城法師にして。學問して因果の理も

あり。祝經ちどして。世にたつこころもせむと

「方集」便上書

いひくれば。お乃まに祝經師よちらんためよ先

るよ系ちうひけり。輿車もみ方の争師よ徳

「大事」ヲ指置テ益クラヌタ上ニ

せしまん時。ちどいじりたむせむらんよ。む

前アリ

ぢりよて落なんの心うらべるとたむひかり。次

よ仏事のほ。酒ちどとじり事あらんよ法師

の善トよ能ちるさハ檀那とさゆぐ思ふべしと

檀那

書言古事云僧道亦施主ト曰

サカ「中比」早奇上テ名物アリ今ノ早奇ノ類カ

那梵語ハ陀那鉢底唐言施主

り。二のどさやうく。其ノ善ノアラニシラヌル

馬ト早奇ト

くそくして嗜ける程り。祝經ちらふまきひはなド

是ヨリ兼好ノ本意ヲ述

てとよりにり。け法師のこころにあはるび。世もれ

んちでけるり。若きやど。決るりよつて方と

きそて。大なるるとも成し。能くもはまき同くしとせ

兼テ思フ

じと。行末久くあはるる心よるまきちり。

我身ノ年寄ルヲ行末久ク思フ

世とのちるよ思つて。おちとつ。先づあはるる

東山ノ行ツキタル家ノ門

ちるるどあつぬうらば。門より出て海へゆくべし
 なる。よから海でまじあぬまは。けととぶえいひてん
東山ニテ
 日とようぬまぢれが。海山のうらうらて又こそ思ひ
 うて先とれもふあよ。一時の悔意とれうち一生れ悔
一時の悔意 今日其の一車ヲ悔意ニテ
空ヲ目ヲ送テ我カ齡ヲ連テ暮トシ一生悔意ナリ
 一ぢと必ちまんと思ふ。他のうのやうなともしむ
 べし。ず。人のあざうらともし恥べし。と。美らうのうら
 ぢして。一の太るうちるべし。人あまうこむけ
是ヨリ世ノ朝ヲ不顧一大ツク水ニ壁ニ
 中よて。あるもの。まひらめ
 ました。まそらのもしたま

人あまうこむ此うせのがあ抄ニ有リ
 まそらの落 美の抄種ノ長チ一尺針
 尺ヲ云也万葉ニ十寸鏡トカケ類
 まそらの落 美の抄種ノ心ナリ

落ノ種ノ麻ノ糸ヲリカケタヤチルラ
 又無明抄ハは外まのりの落ナリ
 古蘇抄ヲ畧ノ云ナリ色ヲナキ落トナ
 登連法師 詞花集
世中人ノ心ノウキ雲ニ雲カケス正有明月
其外千載新撰撰ホノ作者
 座よけりけるが。あつぬうらけり。義うさやあつか
 一のうの落のうり習ひり。このべれひと。まらなり
 君ゆらんといひく。あまうらよ。あつか。あつか
 一そと人のいひま。あつか。あつか。あつか。あつか
 人の命はあつか。あつか。あつか。あつか。あつか
 一あつか。あつか。あつか。あつか。あつか。あつか
 一あつか。あつか。あつか。あつか。あつか。あつか
 一あつか。あつか。あつか。あつか。あつか。あつか

敏則有功 論語陽貨篇アリ

一切ノヲ早速ニツムニ其功アルト心ス

一大事因縁 法華經方便品諸佛世尊ハ

唯以一大事因縁故出現於世

一大事ハ此ノ妙法理ヲ云トナリ 因縁感

應ト云心ナリ然レ諸佛ノ出現ハ只レ法花

説玉ニシテ衆生利益トシ其ノ理ヲ一心ニ

工夫ノサナリ知レトナリ

因縁とぞたむべり

引ふはま事とちをんとはり

お来てまざれ

めぬ人のあり

らぬるがりのふひぬ

となきて

敏とたハ則功あるに

ぞ。縁縁といふ久にも傳る

なる。けいそをいふ

あつけるやうよ。一大事の

思ヒ不依ま

あつぬいそだえ

結人ハさかりありて

たがひて。思ひ

はいと心る

よさゆきさゆ。一生の間も又

らゆ。それさびいゆとわら

るもあまい。不定とらぬ

るの

此段人間世ノ不定

妻といふもの

いはもひらう

が

お住ち

そつべつとど。是非とべつとど

一段一切の其道至ラズニハ外ノ推量皆悉ク違ヒルヲ云ヘリ

達人 多事ヲ明達ニ智ヲ究メタル人ヲ云フ段亦段ヲ承テ入人ノ見知ハ愚痴人ノ推量ハ昏リテハ違ヒ有ルニシテキヲ云ヘリ 論語ニ視觀察ノミヲ以テ人ヲ見トキハ不可隠ヲ云ヘリ

達人の人と見る眼ハおも

あやまるおあるべつとど

あやまるおあるべつとど

へむ或人の世ハ虚言と

へむ或人の世ハ虚言と

海へおして

海へおして

あつんよ。おつたにはおしひて。いあつりよけ

らる人ありおまうよあつ信とたうて。ちあつ

づる〜虚言おつる人あり又何とも思て

らあつぬ人あり又いさつて思来ちおつて

のむにもあつび。あつまじもあつて

人あり又いさつて思来ちおつて

らあつぬ人あり又いさつて思来ちおつて

のむにもあつび。あつまじもあつて

らあつぬ人あり又いさつて思来ちおつて

のむにもあつび。あつまじもあつて

らあつぬ人あり又いさつて思来ちおつて

のむにもあつび。あつまじもあつて

らあつぬ人あり又いさつて思来ちおつて

のむにもあつび。あつまじもあつて

らあつぬ人あり又いさつて思来ちおつて

あしうるとたちうらまはうて。かどあつひる人あり。我共ニ偽ラズテ

是ヨリ右付ノ一ヲ結テ論ス 愚者の中カの戯カに。あつひる人の前カに。あつひる人の前カに。あつひる人の前カに。

あつひる人 其ノ塵言ヲ云フ根ヲ知りタス人ノ ち如クニ心ぬ又人カ或ハ心ぬテモ 知又体ヲスルナド

これちうとあつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

あつひる人あり。あつひる人あり。あつひる人あり。

是ヨリ右付ノ一ヲ結テ論ス

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

カ

横川 近江國坂本ノ邊アリ

行宣法下 坂本ノハアキト云云居住ニテ

キ物語ナトシタルノ井蛙抄見ヘナリ

呂律 陰陽十二調子ノ中六呂陰ノ音ヲ

和ラカナリ 六律ハ陽ノ音ニテコク上名ヲ云

單律 單ハヒトトヨメ六律ニヒトニテ絶ニ島

音ナシト云フ也

横川 近江國坂本ノ邊アリ

唐土ハ呂ノ必ナリ律ノ

音ナリ 和國ハ單律ノ必

て 呂レ音ナリト云フ也

異行ハ系カス。河行ハ系ヒル。地海ニシテ

仁壽殿 拾芥云南殿ノ光南四面

異行ナリ

退行下ノ率於法外ナルハ下系内ナルハ退凡

西域記九日如来御世五十年多居靈鷲山廣說妙法摩訶陀國頻婆娑

羅王為闍法故真梵人徒自山麓至峯上跨谷凌岩繡石為階廣十餘步長

五六里中路有王車馬道下乘即王至此徒行以進謂退凡即簡凡今令同律其

下乘ハ王車馬道下乘ナリ 退凡ハ凡人ノ退ルベキナリ下乘卒都婆山下立故外退凡卒都婆

立ノ故内ナリ

十月と云ふ月はさるる云傳へるに在

夕方ニ難知ナリ或ハ冬十月伊時舟ヲ萌シテ

月ト云云或ハ諸神出雲國へ集リ五ハ出雲ニ

テ八神有月正神月正云云ハ正兼好吉田ノ家

生テ正レシモノ物ナシ云云ハ是以不審ナリ又十月

極陰ノ月正ト云フ一陽未復ノ月正陽

ノ至キ月ト云フカ正云リ

大沐浴ハあるゆへは是モ今世間ニ

兼好時代ニ此世話アリ云々

十月と云ふ月といひて

るるはさるるきよりハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

執 銘別室一名貞又山谷詩 御 又日本紀神代上天照木神 御 又千筋之御 御 又五百筋之御 御 又物方今空穗ノ如ク物ト見ヘリ

世の中さうき付 天地不生ノ氣疫疠

五条天神 御 皇座靈子ナリ 大己貴ト天下ヲ短管シテ疾病ヲ

分ニ神ニ詣テ木餅トドラウケテエヤラ除

鞍馬ノ御 洛陽ノ山ナリ

者督長 檢非違使ノ使聽ノ披官ノ職原ニ當使捕者督長六十六人ナリ此

遺 諸國ニ也

終てのら今の世

勅勅乃而 勅 今こつてて志まる人

之上乃清腦 大方世中此

さつがき時久五条の天神

2 勅とくまふ鞍馬ノ御

まの御非といふも 勅と

らまつらる御なる者

これ負つる勅と云家

きしとあふんかいつけ

とけふあふんかいつけ

犯人 犯罪者ナリ

右罪ノ輕重ヲ考テ 一分半云

昔ハ五ニ死刑ニ行ハマシテ ウナニナリ

拷器 玉箱ニ拷ハ打也 打石ノ木ナリ

大師勸請 此段ハ叡山ノ 何ノ大師正知ニガ

又古ノ聖代ニ起請ニ依テ カリテ述フ

慈惠僧正 元亨釈教日 氏ノ江州淡井郡ノ人

生ハ善士ニ上リ叡山 兼法務ヲ聽 兼法務ヲ聽 兼法務ヲ聽

七十四賜謚慈惠 朝廷ヨリハ慈惠上計 師上云トク

師上云トク

犯人と志りて

時ハ拷器ニよせて

つらふなり。拷器

も。よする能法も

ゆへに人なり

相殿山ノ大師勸請

起請といふるハ慈惠

傍心者始にけり

執情文といふるハ

ハその少はる

おりの路ぐり 是ハ山歌院ノ内時多志僧云
其内アリテ宮女ノ奇ヲ自ミタシ返可有シヲ
世人疑ケル傍心坊地ヲ幼情ノ執情ヲ云々
五ノトゾ

法曹 の法家ヲ云法曹氏法家氏云ナリ
和法ノ律令ヲ知テ沙汰ニ行フ家也

法令 法云ト云ト云

天地ノ向アテテ水大入リヨリ
テ有レ六穢ルノナシ但シ水大ヲ入ルニ云々
可有トナリ是モ起請ヲ用ル人ノ云々云
次手ニ類ノ記ス

使廳評定 使廳ハ檢非違使ノ訃ヲ向
廳ナリ

乃おあ時中内トて使廳ハ評定ト云
官人章草藤ガ牛ト云られて

乃おあ時中内トて使廳ハ評定ト云
官人章草藤ガ牛ト云られて
廳のうらへ入て大程の座
のうらゆるのうらゆるのうらゆる

情子ナド云々ニ云ナリ

乃聖代とて起清々云

きてたこ 起清云々和法氏云ヨリナリ

と近代けり 近代之執行ハ近代ノ事

なり又法令ナリハ

桜と云々 入物云々

あま

国大右大臣 檢非違使

乃おあ時中内トて使廳ハ評定ト云

官人章草藤ガ牛ト云られて

乃おあ時中内トて使廳ハ評定ト云

本草 齡草一名牛轉草即牛
食而復出者 和名齡近介カ云

牛と陰陽師の 吉あり良なる云

父のお國 まろひて牛よふ別なり

庭弱 旬會ニ廷ハ破曲也荀子ニ賤之
如廷注 廢疾人ナリシカハハイヤト云ハキ

乃官人 さぬく出仕の

微牛 とらるるふさやうら

あや とらるるふさやうら

あや とらるるふさやうら

あや とらるるふさやうら

あや とらるるふさやうら

神ノ旺ハ皆由人心興之人以テ為怪則

は段モ今ヤウノメツラシキヲ戒ム

人の田と鶴我物ヲエラヌヲ論ス者一のつらさ訟ノ字ノはまはけて射艾ニ負テ...

田川はりてとささるとて人ト人ヲはつりてシテ...

乃田とささるりてゆくと余ニヨリ云ク...

いふくつとひひけき僻...

べきとつりなまれ上ノモ曲ヲラシメタルカラニ向ニカカラカクカクカク云ヘリ...

ちればいげくト...

いとおしト...

嘆子コドリもト...

くつりト...

あふト...

難知ト...

此ト...

招魂ト...

鶴ト...

今ト...

又ト...

震ト...

月ト...

可ト...

...

...

...

嘆子もいふ古今
毛近ノタツキモエラヌ中ニラボカナクモヨクモ
トヨメルキニ出ツヨブコもノ古今集ノ傳授
ナクテハ知ラヌ也トゾ

嘆子もいふ古今
くつりなるせふ物なり
あふま言書の中より
こもちく時招魂乃法と
とこちく次ありま
ハ鶴なり百葉集の長
秋よ露のちがた春日
のちどはをさうり鶴
し嘆子ものことさ
うひてさ

...

...

と物言ひへようくも

其れ多し相違ふ時必ず怒りあり

いさひもとて 三略云威多則身強

とて物言ひへようくも

項羽山ノ抜カ有テ亡ビ曾我ノ入廉平政門皆

の先やあふ。財ありとて

威勢剛カ有テ亡フ例多シ

ねひんへん。時の海は失

まひやとて 鉅橋鹿臺王何益ナク紂王

ひやとて。才ありとて

モ亡サレ阿房咸陽財宝モ三月ノ紅燒失フ

の心へん。孔子も時よあ

類ナリ

は。姓ありとて物言へ

孔子モ 九周米氣運衰へ各時出玉ハ終

は。新回し不幸ナリ。君

君呼ノ位ヲ得玉ハズノ卒ニ至

は。新回し不幸ナリ。君

初回し不幸 論語顔回不幸短命ノ死

は。新回し不幸ナリ。君

君の寵 史記韓非傳衛彌子瑕カ君

は。新回し不幸ナリ。君

車ニ乘リ桃ノ餘リヲ君ニイラス寵ヲ只テハ三

は。新回し不幸ナリ。君

事大九罪ナリテ 誅セ之ヌ又楊貴妃國忠

は。新回し不幸ナリ。君

類モ果ノ馬嵬ノ鬼トナリ

は。新回し不幸ナリ。君

此露ももあむべし

は。新回し不幸ナリ。君

たさごうとそ物言へ

は。新回し不幸ナリ。君

奴古罪人ヲ奴ト云ヘ凡今ハ奴僕トテ下人

は。新回し不幸ナリ。君

ノナリ尤主人ヲアサムク例不違築

は。新回し不幸ナリ。君

人の志 朋友知音ノ信ノ衰スル尤又衰

は。新回し不幸ナリ。君

むへし信ある

は。新回し不幸ナリ。君

まされ。世なる時

は。新回し不幸ナリ。君

尤右ひろされは 是ヨリ我心ヲ寛大持ツ

は。新回し不幸ナリ。君

時ノ物煩ラハサヌヲ辟言

は。新回し不幸ナリ。君

おほこそとされは 塞くべせ

は。新回し不幸ナリ。君

らと用ふるが

は。新回し不幸ナリ。君

さういあそひてや

は。新回し不幸ナリ。君

損せび。人の天地の靈なり

は。新回し不幸ナリ。君

人の天地の靈なり

は。新回し不幸ナリ。君

尚書ニ惟天地ハ万

は。新回し不幸ナリ。君

物ノ父母ナリ惟人ハ万物之靈ナリ

は。新回し不幸ナリ。君

人の性なるそ

は。新回し不幸ナリ。君

一、百のの刃とともあへる人の世はあか自他り
我人自他
 つきて百の刃無量なり。破らざるは志と志ん
志
 とあへる。百万の刃ありといふも志と志ん
志
 べし。百の刃ハやむと志ん。財ハはらるる物あり
財ハはらるる物あり
 限ある財ともちて。志んも志ん。志んも志ん
志んも志ん
 るゆべし。百の刃ハはらるる。我と我
我と我
 らはらるる。百の刃ハはらるる。我と我
我と我
 されて。小の刃ハはらるる。我と我
小の刃ハはらるる
 君のく。晋の魯の廢カ錢神論曰親
晋の魯の廢カ錢神論曰親
 愛ス。怒兄ノ字曰孔方失之。則貧弱
愛ス。怒兄ノ字曰孔方失之。則貧弱
 得之則富強。無翼而飛。無足而走。
得之則富強。無翼而飛。無足而走。
 解嚴殺之類。用難桑之口。錢多者死。

飛錢の者居後。○此古事蒙求三出たり其時分殆
 略道行ハレタルヨリテ記之政訓ニタレ文ナリ

ねらるる。百の刃ハはらるる。我と我

しく。たそれきまうと志ん。我自由川ノカラストノ壁君ノ神ノソ云
我自由川ノカラストノ壁君ノ神ノソ云
 このそむじといふ。怒り又金銀。兼受アホ上世用ヲ取知ラズナリナリ
怒り又金銀。兼受アホ上世用ヲ取知ラズナリナリ
 して。物と志ん。火のうのきるに。周易乾ノ卦曰水ハ流濕火
周易乾ノ卦曰水ハ流濕火
 就ノ燥ス。孟子云。橋ノ水之就下也。

人ハ富のあるる。火のうのきる
人ハ富のあるる。火のうのきる
 につま。水のうのきる

にちる。いふ。うのきる。人ハ富のあるる。火のうのきる
人ハ富のあるる。火のうのきる
 ハ宴飲。声色と志ん。居おと志ん。志ん
ハ宴飲。声色と志ん。居おと志ん。志ん
 出せ。これと志ん。是と長者辭
是と長者辭
 人ハ富と成ぜん。財と志ん。後と財と

持人の持論語は互語辞より。人財ヲ好ム我ヲ叶ヘタキカガナリ

とふるのハ初しとらるる

ガ故なり。おれあまごどももんど。後あまごどももら

ひざらむハ金く貧者といふ。何とも樂とせん

けとまきていふ。人間の金とて貧とて富とて

べらぶとゆのさう。欲と成してさう。ひとせん

癰疽ノ一ニ字ハ腫物ナリ。變ノ聲ハ癰疽ヲ病ム人ハ甚ク熱ク故ニ冷水ニ洗

テ樂ト思ハレ唯余ハヨリ見レハ豆病テ此ノ樂トせんヨリハ錢ナクテ欲チキヲニサルトス

一ニ聲ヲ樂トせんヨリハ。病とせん

つにありてハ。是ハ貪テモ每欲九処ニ至

テハ貪富同ジツト多欲ナガ故ニツ財ヲ

樂トス。我心ハ空ナキ時ハ富シウラヤムナキナリ。知リ富ナシト云ヘリ

欲と無欲の似あり

天台家ノ六節ノ中ニ究竟トハ妙覺ノ位ニテ如來地ナリ。理即トハ佛法ノ名字ヲモ

知ラヌ凡夫体乃至畜類ト佛性ヲ具スラ云リ。愛ノ心ハ究竟ハ理即ニトキト云ヘハ右長者云ヘル

如クニ大欲ナル每欲ニ似タルヲ用畢竟ノ処。究竟ト理即ト替ル如ク天地各別ナラシ言表ニ

云述ナリ。此段前長者ノ辞ヲ述ヘ次ニ已ガ本意ヲ述テ財ヲムサボリテ樂トスルヲ癰疽ヲ病者

水ニ洗テ樂トスルヲ疥癩ノ人ノ上ヨリ見レトキ愚カチカ如ク每欲ノ心ヨリ見レトキ淺猿記ス

堀川。久我ノ一門基具。太政大臣号堀河。本寺。仁和寺ヨリ少方ニ野アリ。今モ本寺野ニ云此下ニ云

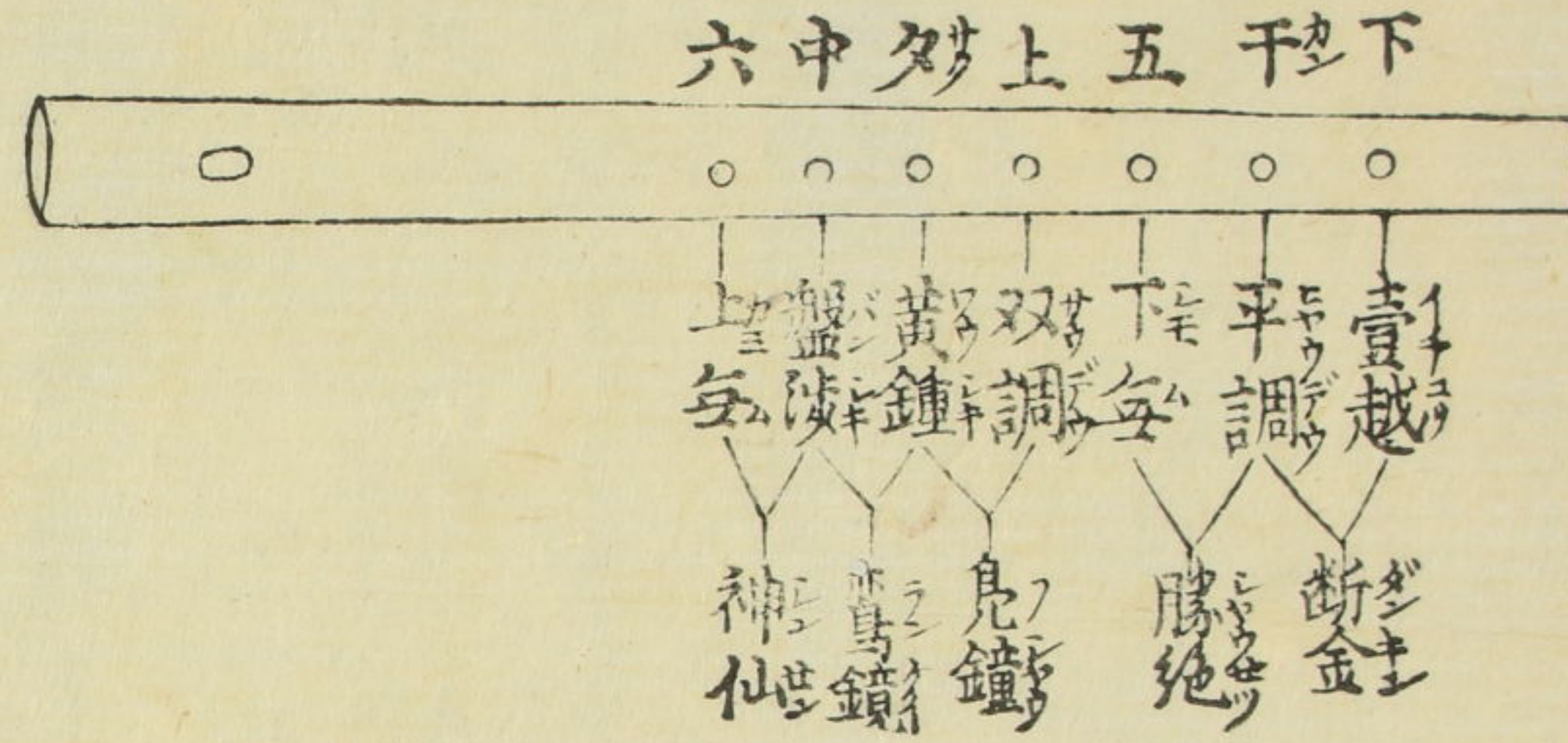
狐は人よりひげくものなり。堀川ぬきて舎人が

ぬき足は狐よりくる。仁和寺にて。夜本ち乃の

とぬきそこれとあせぐる。狐二足とほく。ひらの洗

まこころぬ。二つよげぬ。法師のあまごおくられらぶ

三十一



如此七ツ穴間ヲカテ
 同クレテ然モ五ツ穴ト上
 穴ト間ニ調子ヲ持ヌリ
 爰ヲ吹得テ雅ト云ク

尚ヲ十二律ノ一傳授ナクテハ難知トゾ

他日ノ系茂ガリ作ノハ笙ハ志々々おかせておらる

系茂 大津氏ハ備ノ山ノ井上云所ニ佳地

下ノ樂人ナリ

あつておかせて 笙ハ管多ト云ハ正一ツ

ふらふらふらとてゆく地ちまじら穴ト云ハ傳ノ上ニ性

骨とくちてんといふる五の穴のとりりまじら

ひとくちのくとつらし宅じへらびあしあけらつら

まの穴しころらようらび上らつらまじら吹あはら

呂律の物まじら人のとがなり。笙の失りあ

らびとらた 辞至極世ルラ云ハリ

何るしきまハ残かこららまじらも。天王ち乃章樂

上下清濁ノ調子ナリ

六呂陰ノ管「六律陽ノ管

此段心調みうラ述ホノ系茂カ

樂器

天皇御宇 推古天皇ノ御宇聖德太子建
立レ玉ヒテ四天王ノ像ヲ安置ス故ニ然云揚律
國ニアリ

伶人 書言故夏云樂人ヲ曰伶人
注 黃帝ノ世伶倫造音樂故示伶人一

調子 嵩ヲ湘合ヲ持名ノ嵩竹ノ類
へあそびて。その音のめでたきなり。

外よりしとききこえり。おもひ

ゆりゆりせとひいそひ

節奏ノ二字ヲ云ハカサ
ヨメリ上下ノ洞子ノヲ云愛ハ其ノハカセヲ

定規トシテ諸ノ調子ヲ定ルト云心ナリ
六時堂 則チ天王寺アリ六時ノ行ヲト

ムル堂ナリ其ノおの鐘樓ヲ云
黃鐘調 中央ノ調子ナリ又ハ一洞子
ナカニモ上中下アリ其ノ家中ノトナリ

涅槃舎 二月十五日ナリ

聖霊舎 二月廿二日太子ノ忌日ナリ今モ

天王寺ニテはるヲ行ヒ奏樂ナドナリ
指あとの 其ノ向ノ鐘ノ声ヲ定規トシテ

二洞子ヲ定ムナリ指南ノ唐ニ指南車
テ車ニ人形ヲ作り必ス南へ指スヤウニテ方角
ヲ教タルアリ是ヨリ用ユ

祇園精舎 天竺ノ精舎ヲ云モト祇陀太
子ノ園ナリシ須達長者金ヲシキテ己
求テ精舎トセシ故ニ祇園精舎ト云精舎
仏閣ヲ指シ云ナリ

三常院 是モ則祇園精舎ノ中ノ其一ツ
ナリハ三常院ノ鐘モ黃鐘調ナルヲ云

平家物語ニ祇園精舎ノ鐘ノ声諸行無常
ニキキアリト云

西園寺 拾芥云衣笠山ノ良太政大臣公經
ノ家トアリ

法金剛院 ツキ山ノ南太秦ノ東ニ跡アリ

拾芥云本名天安寺待賢門院御建立
也

のこ。却又駐どといへん。天

まぢれ伶人の声なり。

當ちの樂のよく圖なき

へあそびて。その音のめでたきなり。

外よりしとききこえり。おもひ

ゆりゆりせとひいそひ

其声黃鐘細乃わらう

ちり。空暑よきなり。ひて

あがり。さびりあまふまな

二月涅槃舎より

まその中何と指あとの

秘されるなり。ハ一洞子

ともちて。いづれの声をも

らとのへつかりなり。

是ヨリ鐘ノ洞子ハ黃鐘調ナルヲ云

とくそ鐘の聲は黃鐘調

なるべし。是モ當りの洞子。

祇園精舎の聲は黃鐘調

の西園寺の鐘黃鐘調

いづれなり。あまふま

な。いづれなり。

比如輪上人是とリてあら

まじり

ふた細エハカ... ざき刀とけいふと... ぬが

如規元亭叙書三勝尾寺ノ講堂ノ観音
像ノ宝龜十一年七月十八日比五奴親刻

かゝるんいさくもやぶ

ヨウ切ルヲ不用ヲキカヲ刻メ小カメハ浅クシテ然モ其ノ細ユ約ナリ是レ其ノ細ユノ至故

五条の肉裏... 藤大納言

うゝゝと作... 基と

けるに... けんと

これハ狐... のやうに

まきろの... して

未儀の... 夏ハイタマカノユカヌガク

ルニタシレンナキ狐ト云フ

○は段世間ニ妖物ナド云ハ皆狐狸ノガ

ナルヲ知ラセタリ

園別者 基氏公ナリ天祿二年十一月

七月上辞状ヲ出家ス。園ハ号ス

別當ハ檢非遠使ノ別當ニ任セラレ故ナリ

持明院院中納言基家ノ三男

庖丁 本朝庖丁者始ハ四名家ノ庶流

山蔭ノ中納言ナリ

莊子養生主ノ篇ニ庖丁ト云者牛ヲ解

事ヲ詳ニセリ丁氏庖厨ノヲ知リテ宰烹

スル故ニ庖丁ト云ク

煤の狐をけそん... けるに

して

園別者入道ハ... 基

庖丁者ナリ。或人の... たり

うゝゝと作... 基と

けるに... けんと

これハ狐... のやうに

まきろの... して

ふた細エハカ... ざき刀とけいふと... ぬが

かゝるんいさくもやぶ

よウ切ルヲ不用ヲキカヲ刻メ小カメハ浅クシテ然モ其ノ細ユ約ナリ是レ其ノ細ユノ至故

五条の肉裏... 藤大納言

うゝゝと作... 基と

けるに... けんと

是非正ナリ

心ニタラシク後ノ中空ニタレユニ一切ノ物ノ影
ウツリ来ナリ病ヲ家ニ主ナケルハ外ノ他
ノ来ルト同シ

虚空 必マ天ヲ指シ非ニ云物チキテ指
ノ虚空ト云爰ハ前ノ家ニ主ナキト後ノ
中ノ空ナルトヲ結ノ云ヘリ

我あらん 是ヨリ本心ヲ殺チテ求エザレバ
此ノ虚ニ乗ラセテノ妄念雜心ノ入ル
ヲ云ヘリ主ニ妄念ノ殺ラハ内ヲ
直クセハ何物カ至リ来ニヤ

たゝやあらん。んりわーあゝ師いふ胸のうら

りしあ干乃ここへ入まうてうごう師

お雲 龜山ノ如クニありお雲ノ大社ヲク
ツセニヨリテエテ出雲ト云トナリ

大社とてうつしてあてめはくらまうまう乃がたに

しとらやあらん。秋の比聖海上人そ介も人

らざう師。虚空くも

のびりる。我あがらんよ念く

のりしきゆりりまあり

うらあらん。らりあんのら

のりしきゆりりまあり

うらあらん。らりあんのら

のりしきゆりりまあり

うらあらん。らりあんのら

のりしきゆりりまあり

あまのこらそひていざ路へかまをうまに。ういりらいい

させんそてぐりりていまうらに。各あがてゆい

く信かうり。清前ちる獅子こゆいぬそむま

てうらろさほよらうられ。上人いり感

して。あふめできわ。け獅子乃らちやういせめぐら

うきおあんとほくそ。いよるぬ糸。殊縁乃るま

清純どらめびわ。雲下なりといくを各あやして

海とに他りうらうらり

けの清らにうらうらり

いすいよらんちゆり

土産 庄里庄者ナリニヤケト云
ナリ 業平ノ系ニ
ナリ 今ア子ハノ松ノ人ナスルヤト云

神社ニカギラス棟中ニモ有

未詳

志 太氏ノ御基ナリ

試みるもそのちうぶるきくききて落べしあはし
兼好ノ人ニ云粹

入る洞乃あや海くさる事と人々感は
入る洞乃あや海くさる事と人々感は

一當代いままの坊よかりし比方里小路なぬ
後院砌カ光ツカ

兼好ノ用ノナリキ
用ありてまうするに。後乃又のまはる

ひろきみひて唯今西而そ案乃朱くもふ
春冬

悪むといふ文と後せうまきさるるまて御
春冬

の次どれども。の次かされぬく。ちかしくひきん

よと作るうそを求るなりと作るあはれは
兼好ノ辭

のそくくの程はつらと戸らりふあれうま
此の朱 論語才九陽貨葛悪此朱之

どるのりい見とも帯のるるまきど。むしれ人
是ヨリ兼好謙退ニテ

あつともといく自漢しあつたる。後ちの院の
是ヨリ自漢チ例ヲ引

兼好ノ社ともあつと一首乃うらふあつらんや
上ノモ上リウトニヨミニナリ

兼好ノあつたるは原棟梁ノ多ナリ奇ノ心ハ花
兼好ノあつたるは原棟梁ノ多ナリ奇ノ心ハ花

秋の野凡草のたもと花を死にたてまの
定家古今引ヲ秘言

とつれは。何れもあつたへまきとされらるる
兼好ノ時ニシテ

あつたてな奇と覚悟とる乃真かちりち
兼好ノ時ニシテ

あつたてな奇と覚悟とる乃真かちりち

と堂傍へとぐくく作しと。成らるる裏あ
 ろ人。法理をうかうぐきあるべしといひらる
 に。裏ハ塵つり。虫乃業してつげせげらる
 さまのどして各見ゆ。行成位署名字年号と
 云々 位置 姓名の上ニ官位ヲ書連ルノ位置ト云フ
 真りり
 八災 憂 苦 喜 樂 災 厄 出 息 入 息 是
 不化 呼ヲ能化ト云カ子ヲ花ト云
 兼好 兼好ノ辞
 感一ゆりき

賈助彦と。いひて。おぼ者の所入ゆ
 三を法條と成近してりしあさうふけり
 大なりてえと。いひて。いひて。いひて。いひて
 入りて。いひて。いひて。いひて。いひて

堅細彦 兼好ノ辞
 おおる水 兼好ノ辞
 兼好ノ辞

今りふふる人
 波をせぬおめおめかひりては
 身も心もわかれりつらつら
 心んくは
 ちかちかどよめんおを
 兼好とて後の世をたはし後
 年しははれぬとておんおを
 一

のひて。びんよくハミヤあちどくらんりのぞ。まありさぬ
は宜よりハナリ

系うて尸せ。奥あんとてはりたまひけりぞ
空七条 自後可

八月十五日ナホヅキ九月十三日ロウレウハ妻宿シウサイノイなりニシは右清吟ニシなりニシ
月とむてあそぶり良夜と云

妻宿ハ八宿ノ一ツナリ西方ニあり此宿秋属シ金ニ属シタ六清明ノ委尤之
叔正月一日ヨリ十二月晦日ニテハ八宿ヲ一星ヅ、毎日ニアテ、其ノ日ノ宿トス中比内裏同禄スル日牛宿ニアタリタレハ牛宿ヲ除テハ七宿トセリ今考シサ七宿ニテハト夜妻宿當ナリ然レハ兼好モサ七宿ヲ用ト見ヘタリ

志のの浦ハ段好ミノノラツツラチタレ
氏畢竟我身ヲモ不省似合ザル入ノ色ヲ好ム処ヲ戒テセリ 志のの浦ハ 奥州郡各發端ノ辞ハ人ヲレノアト云シタメナリ

海士ハ海ノ松ノ和布ナド列者ナク
忍ビテ通ハントスルモ人目ニセカレテ自由ナラヌ心ヲミカケタレナリ
 山城ノ名ハ暗部山ト云ヌハ
カヨ 心ノを浅

山城ノ名ハ暗部山ト云ヌハ
通ヒガタキナリ具ハ非ハ通ナリ

年ノ八月ニ梅ノ花ナカリニ去冬ヲ思フキテ夕子ヲ三井テ三レドハアリ

ラ指御垣ナリ 大和ノ名アリ 斐ニテ内裏

源氏花ノ宴ニ光源氏ノ朧月 夜ノ内侍ノカニ内裏ヲミカテ玉ヲ思ヒ 玉ハ元ニイデヤシヌラナドアル辞ニテ

望月 易ノ豊卦ニ日月盈則食ス 釈名日月ハ滿也滿則缺也望月之滿之名也日月遙相望者也

心とめぬ人 古来日月ノ運行ハ一息間モ懈怠ナキハ四ノルカトスレハ則チ心ヲ付ヌ人ハアノリ一夜ノ中ニ欽ルアリトハ知ラズ

月ノ満ルト其ニ欽ル 死ニ至ル

の露多いでん 如此人ハサモアラシカリ

家ガゴ海ナリ 老ハ呼東入ナド對ス

らん人ハ 老ハ呼東入ナド對ス

望月乃まらう 望月乃まらう

乃申よ。さすて 乃申よ。さすて

死ニ至ル 死ニ至ル

乃念よ明ひて 生の中よあわくたを成トて候

急を悔て けなかり 急を悔て けなかり

ひとれこころ 我にもあはれ 我にもあはれ

まのん 悲あろよ 悲あろよ

海ありて 海ありて

心とめぬ人 心とめぬ人

のとくふりてなり終あなりと又らふ。さあ
 じめひける身一乃佛のいふなまか佛のいふ事と
 いふとれた文。空よりやうらん^羊とよもやうらん
 いひてさうふ。同つあうそえうさへびなりゆうつと
 然人^{ヒロミト}よかろうて真^{マコト}なり

 此段一部ノ巻軸上ハ尤心アルベキナリ也夫レ道ノ至極ハ言語ニ不^レ能^レ辨^レ文字ニ在^レリ
 上ニ自然ト以^テ心付^ルシテ先哲モサト^リ知^リ尚^ラ其ノ緒ヲ登^ル人々ニ工夫^ヲ上^ラ以^テ至^ル道
 ヲサト^ララ^シメ^シカ^ク為^ス暫^ク記^ス之^ヲ一部ノ本意ヲ結^ビタ^ル者ナ^リ是^レ引^テ不^レ至^ル至^ルノ語カ

徒然草諺解卷五終

寛文九巳酉年于林鐘上旬

猪熊通四條上町

中村五郎右衛門

板開

馬場手野



1669

